

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790101109		
法人名	((株)ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	あったかいごとやのグループホームそよ風 1丁目		
所在地	福島県福島市鳥谷野字中ノ内2-2		
自己評価作成日	令和5年3月15日	評価結果市町村受理日	令和5年6月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1丁目は、認知症の症状が重度のため、寝たきりや車椅子、食事介助が必要なお客様が多くおられる中、日々の様子や表情、会話などでおお客様の思いや状態を知り、ミーティングなどで話し合い、お客様により良いケア、サービスを提供出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所では協力医による訪問診療体制が整っているが、利用者の入居前のかかりつけ医との関係を重視して利用者が外来通院ができなくなるまで、かかりつけ医への継続受診を家族と職員が協力して支援している。
 2. 毎年2回の家族の満足度アンケートや身体拘束・虐待に関する職員への自己チェックの実施、年1回の職員個人面談や日ごろの業務内容の点検を通じて課題の把握に努め、課題があれば対応について職員との話し合いを行い、利用者本位のサービスの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を考えながら事業所独自の理念を作り、職員が常に見える廊下に貼り出し共有している	理念は額に入れ玄関に掲示している。また、事務所や各ユニットの通路に常に目につくように理念を模造紙に大きく書いて掲示し、職員への周知に努めている。毎年、理念に基づく年間目標を職員間で話し合っ決定し、年度末には振り返りを行い理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の地区の盆踊りや敬老会ですが、新型コロナウイルス感染拡大予防にて、中止のため参加はできませんでしたが、ハロウィンでの保育園児との交流は感染対策をしながら出来ました。	町内会に加入し、回覧板の代わりに町内会長から広報誌や総会資料等を届けて貰っている。盆踊りや敬老会、地域の避難訓練等に出席可能な利用者とともに参加してきたがコロナ禍で中止になっており、関わりは薄れている。長年継続してきた保育園児の訪問もコロナ禍で中断しているが、園児手作りのプレゼント贈呈などの交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの修了書を持っています。運営会議やカフェを通して認知症の理解を伝える。(現在も新型コロナウイルス感染拡大予防の為、認知症カフェは中止の状況です)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルス感染拡大予防の為、書面による会議とさせていただいております。	地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・事業所建物の家主・家族代表を委員として運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。コロナ禍以降は、書面会議として遠方の家族代表へ郵送で、その他の委員には訪問のうえ資料を配布し意見書を同封しているが、意見は出されていない。今月から対面での会議を再開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括職員や長寿福祉課、在宅医療、介護連携支援センターへ困難ケース等相談させていただいております。	利用者の介護認定更新申請や事故報告の折には直接、市の担当者を訪問し、指導や助言を受けている。また、生活保護受給者の取り扱いや困難ケースの対応等について相談を行い、その都度アドバイスや指導を受けるなど、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や勉強会、会議を行い、常に身体拘束の話し合いの場を設け、防止に努めております。玄関の鍵は日中帯はかけずに開放しております。	会社の重点事業として、「身体拘束・虐待ゼロ宣言」を行い、年2回以上全職員に自己チェックを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。集計結果から課題を把握し勉強会を実施している。本社作成の指針とマニュアルが整備され、センター長・管理者・各ユニット長で構成する委員会を年4回開催する他、年2回職員研修を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、日常生活の中で虐待に値するのかが確認を行いケアに努める。また、2ヶ月に1回の虐待防止委員会を行い、虐待に繋がらないか確認しながら防止に努めました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括職員に相談しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解の上で入所いただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様より聞き取りを行い、運営に取り入れております。	日頃の職員との関わりや会話の中から利用者の言葉を汲み上げて、意見の把握に努めている。家族との連絡は携帯メールとしているが、意見は面会や電話で話をするときにも何うようにしている。また、会社で家族へ「満足度アンケート」を年2回実施し、意見等の把握を行い運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との何気ない日常の会話の中で言葉をすくい上げ、運営に反映するよう努力している。また、個人面談を実施しております。	毎日の申し送りやミーティング、日常業務のなかで管理者は職員の意見の把握に努めている。また、年1回、個別面談を行い、意見や悩みを聞いている。出された意見はユニット会議等で話し合い、試行的に実践して効果を確認のうえ見直しを図るなど運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働きやすいように気配りして下さっております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修なども取り入れて下さり、私たちの意見も聞いてくださっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大予防の為、Zoomにて交流する機会を設けていただいております。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実態調査にて思いをくみ取っております。また、会話が難しい状況であれば、ご家族様からの意見を参考にしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査にて思いをくみ取っております。また、入所当日にも思いを確認するように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の実態調査での聞き取りと再度思いの確認を行い、より良いケアに繋げて行けるように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設での生活の主はお客様であることを職員も再認識し自立支援と自己決定が出来るような支援の取り組みをしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中でも病院受診など協力していただき、ご家族様との関係を大切にしながら築いております。また、お客様の状態もこまめに連絡報告致しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所付き合いが継続していけるように、面会時にはこちらからお声掛けしたり、ホーム内での関係も途切れないように関わりを持てるように支援に努めております。	知人友人との面会や墓参りはコロナ禍で制限せざるを得なかったため中断しているが、電話での交流を継続できるよう支援している。また、外来受診後に家族の協力により、なじみの店で買い物をする利用者もいる。コロナの分類変更に伴い、家族等の面会は増えてきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で何か行う時は見守るようにしております。(簡単なそれとって、それ貸して)など、また、関係があまり良くないお客様同士の関わり合いには、距離感にも気をつけております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も年賀状のやり取りやご家族様が来訪して下さったりと関係性を大切にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いをくみ取れるよう努めております。月1回の担当者会議を開き把握に努めております。	利用者の思いは、日々の関わりの中から把握するようにしている。会話が困難な利用者の思いや意向は表情や反応から汲み取るようにして、ユニットミーティング等で話し合っている。また、月1回のケアプラン見直しの担当者会議で一人一人の利用者の思いについて話し合い把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から昔の話を聞いたり、ご家族様とお話する機会をつくりその方の人生全体を捉えて関わられるようにしております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様には担当スタッフがついており、担当スタッフ中心に日ごろの把握に努めその都度ミーティングにて見直しを行っております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調の変化や日々の関わりの中で利用者様やご家族様の意向を把握し職員間でケース検討会議を行い介護計画書を作成しております	タブレットを使用して介護記録等を行い、電子カルテとしてまとめ、毎日、ケアプランの実施記録とモニタリングを行っている。ケアマネが内容を確認し再アセスメントを行い、担当者会議で職員の意見を聞き基本3か月ごとにプランの見直しをしている。ケアマネは誰のためのケアプランなのかを考え、現状に即した利用者本位のプラン作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援、その結果を記録できております。気づき・工夫等も記録しリーダーが吸い上げ統一した対応が出来るようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変わった時は、最善のケアが出来るようにアイデアを出し合い、試行錯誤しながら支援に取り組んでいる。そのための勉強会も行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の協力を得ており、ご利用様が帰宅願望にて外出や徘徊しても温かく見守ってくださっております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご利用者様には在宅から続いている主治医がおり継続出来るようサポートしております。また、受診が困難になった場合にはご家族様と相談し病院を選んで頂いております	利用者の多くは、家族の協力や職員の支援によりかかりつけ医を継続受診できている。通院が困難な段階で協力医の往診に切り替えている。家族対応時は事前にメールで情報を伝える他、家族から状況を伝えてもらっている。受診結果は電話やメールで家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護に向け担当者がノートに記入しその都度処置の指示やご指導をうけ日々のケアに活かしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とこまめに連絡をとり早期退院に向け会議に参加したりと良好な関係を築いております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針やホーム内の看取りについて入居時に説明しホームの指針を理解した上で入居して頂いております。また、状態変化に伴い改めて再度看取りの指針を理解していただき同意書をもらい地域の医療関係者様・スタッフ・ご家族様が一体となり取り組んでおります	入居時に重度化対応指針・看取り指針を説明し同意を得る他、口頭で看取りに対する希望も聞いています。重度化した時点で主治医から再度説明し希望があった場合は看取り介護を行っている。看取り研修を年1回行うとともに看取り後振り返りの機会を設け話し合っている。看取り期には部屋で家族の面会や宿泊も支援し、協力しながら看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様ごとに起こりうる急変やリスクについて検討し対応の仕方を勉強会をスタッフで共有しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日々掃除の時火災防止の為危険箇所がないかチェックをしている。年に2回の総合避難訓練を近隣の方も交えて行っております。また、運営会議にて災害(水害も含む)時の対応の確認もしております	年2回防災避難訓練を計画し、実施している。5月に消防署の立ち会いを要請したが当日地域で火災があり実現していない。夜間帯の浸水を想定した垂直避難、日勤帯の火災想定避難訓練を行っている。コロナ禍前は町内会長など運営推進会議委員の参加協力を得ている。おかゆやレトルト、水なども備蓄は3日分備えている。	年2回の訓練では訓練を経験できない職員がおり、職員全員が夜勤時に適切に対応できるよう想定訓練も含め訓練回数を増やし実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に合わせた対応、個別ケアに努めています、申し送りや日々の会話の中でも気をつけております	法人のコンプライアンス研修の他、虐待自己点検チェックシートで振り返りを行い、課題があれば対応について話し合いを行っている。特になれなしい言葉、赤ちゃん言葉、命令口調等職場内で見られて時はミーティングで話し合い防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすい質問に心がけご本人様の意思を引き出せるようにしております。また、飲み物やおやつ、衣類の自己決定を促しております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に応じて無理のない生活が送れるよう配慮しております。時間に関係なく本人の希望で居室で休んだりして頂いております。朝も目が覚めた方から起きて頂いております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は選んで頂き、整容も促しています。爪切りや髭剃りのお手伝いをし身だしなみに気をつけております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	皆で楽しく御食事を共にしております。また、楽しくお食事をとれるよう機の配置に工夫しております。(コロナウイルス感染拡大予防のため間隔をあけております)	ご飯とみそ汁以外は3食ともクックデリーのチルド食を温め提供している。お誕生会や行事の時はケーキ、おやつを手作りして楽しめるよう取り組んでいる。コロナ禍で外食や出前等は行われていない。利用者は盛り付け等の作業に参加している。	月に何回か食事を手作りする機会を設け、利用者が職員と一緒に作業に参加する等、食事への楽しみや旬を取り入れたグループホームならではの食事の提供が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様やそれぞれの好みや状態に応じて食事や飲み物を提供しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指示のもと、朝、夕に一人ひとりに応じた口腔ケアを行い出来ることは本人に行っております。食前の口腔体操も楽しく行っております。毎月8日を歯の日とし、口腔チェックや歯ブラシ交換をしております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。	おむつ以外の利用者は、様子の確認や排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導を行い、排泄自立の支援をしている。オムツからリハパンに変更した利用者もいる。行政へオムツ券利用の申請を支援し家族の負担軽減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を取り入れたり飲食物やマッサージ等で工夫をしておりますが、薬での調節もしております		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある入居者様には希望に添えるようにしております。入浴拒否の方や重度認知症の方は気分、体調の良い日に入浴して頂いております	週2回を目途に入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合は時間や日時を変え対応する他、足浴や清拭で対応している。自立度の高い方は希望があれば見守りで夜間入浴も対応している。ゆず湯や入浴剤を使い楽しめる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に応じて休んで頂いております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は説明書を読み理解し分からないことは看護師や薬剤師へ聞き把握に努めます。また、変化については経過を記録し往診時に報告しております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ること、楽しめることを探し支援しております。月一回のご当地メニューの提供や、外食支援にて気分転換を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日には、近くに散歩に出かけたり、庭のお花を見たり。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、ホームでホットケーキやたこ焼きパーティーをして楽しんで頂きました。	天気の良い日は、近くのお寺などへ花を見ながら散歩に出かけている。庭にチューリップやマリーゴールドなどの花と一緒に植え外気浴を楽しんでいる。また、プランターで野菜作りを行い食材に利用している。車で花見や紅葉見学のドライブの他、家族の協力で墓参り等を予定している利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル等の心配のないご利用者様がご希望の場合、家族様と連携をとり所持しておりました。また、ご家族様が預けて行った際は必ずスタッフへいくらをどこに預けたかを声かけて頂くようにしております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられるように事務所は開放しております。また、子機が各ユニットにあり、外線はついてませんが、いつでもご家族様からかかってきたお電話繋いで会話を楽しまれております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招く刺激はありません。花や壁画で季節感を出し臭いへの配慮や温度調節も行っております	エアコンや加湿器で空調し、快適に過ごせるようになっている。食卓のテーブルの他ソファークーナーもあり足を伸ばして休む利用者もいる。家族が持ってくる花を飾る他、利用者と一緒に作った季節のはり絵を掲示し季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、一人でも足を伸ばしてくつろいだり入居者様同士座ってお話ができるようにしております。ちょっとしたテーブルとお茶セットを置き、自由に飲んで頂けるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時準備して頂いております	居室はベット・ロッカー・洗面台が備えられ、エアコンで空調が行われている。習字や貼り絵などの作品、カレンダー、時計の他、自宅からテレビ・位牌・遺影・家族写真・こたつ・椅子など馴染みのものがあり居心地よく過ごせるようになっている。趣味の編み物道具を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入った入居者様がなれるまでトイレの張り紙(トイレ)を貼ったり工夫をしております		